

トマス・フッド

6 浮気なサリー・ブラウン
古いバラッド

若者ベンはナイスガイ
大工仕事なりわいがベンの生業
恋の相手はサリー・ブラウン
貴婦人に仕えるメイドさん

ある日 二人は散歩に出かけ 5
強制徴募の水兵たちに襲われた
サリーは気を失い
ベンは奴らつかに捕まった

ポーツスウェイン
水兵長が 10
聖者も真っ青の卑猥なセリフ
「女の気絶は見せかけで
気持ち高ぶる悶絶の振り

姉ちゃんよ 頭を上げな
奴と俺とどっちが美味うまいか 食ってみな
あんたスウェインの彼氏ポートが船に乗れば 15
美味うまい水兵長ポーツスウェインに育ててやるぜ」

寄ってたかって女をなぶり
女の彼氏を連れ去った
意識が戻った女が気付けば
悶絶してたのは自分だけ 20

「あの人は行っちゃったの 行っちゃったの」
女は叫んで 激しく泣いた
「だったら あたしは水辺に行って
姿が見えなくなるまで見送るわ」

わたしもり
渡守が近づいて 25
「お嬢さんや
そんなに泣き続けると
涙で海が溢れるぜ」

「ああ 恋人^{ボウ}ベンを奪ったの
老いぼれ装甲艦に乗せたの」 30
女の悲しみが またどっと溢れ出た
まるで発破をかけられたように勢いよく

「奴さんが連れて行かれた先は
優男^{テンダーシップ}船だ 心配するな」と渡守^{わたしもり}
「優男^{テンダーシップ}船ですって 35
ほんとは難儀^{ハードシップ}船のはず」とサリー・ブラウン

「ああ 今こそ人魚^{マーメイド}になりたい
そうすれば 惚れた男の後を追えるのに
でも ああ あたしは雌^{メス}の魚でも魚売り女^{フィッシュウーマン}でもなく
泳ぐのはとても無理 40

乙女座^{ヴァージン}でも天秤座^{スケイルズ}でもないあたしは
処女^{ヴァージン}でもないし 鱗^{スケイルズ}も無いの
だから 酷^{ひど}い星の元に生まれたことを呪い
残酷^{ウエイルズ}世間を歩いて渡るの」

さてベンは はるか地球の裏側まで航海して 45
たくさんの土地を回ってきた
やがて二年が過ぎて 船は港に戻り
帆^たが畳まれた

サリー・ブラウンがどうしているかと
ベンがやって来てみると 50
サリーには別のベンがいて
そいつの洗礼名はジョン

「おお サリー・ブラウン サリー・ブラウン
何という裏切りを
今までたくさんの微風^{そよかぜ}に当たってきた俺は 55
こんな突風^くを食らったことはない」

それから タバコの箱の文字に目をやって
深いため息ついて
手にしたパイプに目を落とすと
ひーひー言って泣くのであった 60

それから 「すべて良し」をうたわんと
いくら頑張っても うたえない
気でも狂ったか 首を回して
弁ビグテイル髪ビグテイルを捻り煙草よろしく噛みながら 息絶えた

バース生と共にある死を己がバース船室で迎えたベンは 65
しじゅう四十そこらの盛り時
水兵仲間が 墓掘り男に奴の死を告げ
墓掘り男が 弔いの鐘を鳴らしてやった

(山中光義訳)